

職場体験の事前学習に

職場体験の事前学習として実施する

VRTを職場体験の事前学習として位置づけて実施することで、職場体験をより効果的なものにすることができます。事前学習の充実が職場体験の効果を高めるポイントと言えるでしょう。ここでは、VRTを使ったプログラムの一例をご紹介します。

キャリア教育の中で、職場体験につなげるものとして位置づける

職場体験は、生徒がそのねらいや目的を理解しないまま参加しても、一過性の「なんとなく楽しかったイベント」で終わってしまいかねません。

中学生の段階ではまだ「いずれ自分が働くことになるんだ」という意識はなかなか持ちにくいものです。社会や職業、働くことへの関心、主体的に自分の将来を考え、進路選択していかうとする意識も必ずしも高いとは言えない生徒も多いでしょう。

職場体験をそうしたことへの気づきや発見の機会とするためには、ねらい・目的を明確に理解させ、生徒の動機づけをしっかりとさせることが重要です。

これから職場体験に臨む生徒にVRTを実施

職場体験といっても、いったい何をどうやって、何のためにやるのか、生徒たちは最初はわかっていません。そもそも職業についての知識が乏しいので、ピンとこないし、自分が仕事をすることにリアリティが持てないので

す。世の中にどういう種類の職業、仕事があるのかわからないままだと、職場体験先の選択もできないし、行つて帰ってきてても意義を理解することなく、まもなく忘れてしまうイベントになります。

そこで、例えば職場体験が2年の夏休み中に予定されている場合は、どういう職場に行くかを決める前の1学期後半に、VRTを実施します。

中2の時点では生徒の知っている職業モデルはごく限られています。VRTを受けることで職業への興味・関心が芽ばえ、広がっていきやすくなります。まず、VRTの設問内容やワークによって、世の中には自分の知らない職業がたくさんあり、社会は様々な仕事から成り立っていることがわかり、これから行つて体験する職場もそのうちのひとつである、と感じさせることができます。「職場体験とは何なのか」へのアプローチです。そして、結果プロフィールから自分の個性のよくなものの手がかりが見えてくるの

で、それを参考にしながら職場体験の業種を選ぶことにつなげていきます。

将来、やがては他の誰でもない自分自身が働くのだということ、その時はやはり自分の個性のタイプに合った仕事に就いたほうがよいだろうということ、職場体験はその探索のための第一ステップになるということを理解できれば、確かな動機づけとなるでしょう。

生徒が学習の流れを理解すること

事後学習もしっかり行います。職場体験記録をまとめ、自己評価、グループでの相互評価、先生、体験先からの評価等を含めた事後報告を行います。

感想、自己評価においては、例えば職場体験であった出来事に対して自分はどうのように対処し行動したか、自分は現場でどんな仕事に興味を持ったか等を振り返り、自分についての気づき↓自己理解↓将来について考える↓そのために今何をしたらよいのか、と発展させることができます。

職場体験をめぐるそうした一連の流れとそれぞれのプロセスのねらい・目的を生徒が理解するように位置づけておけば、動機づけもはつきりでき、自分なりの目標・課題を想定した効果的なキャリア教育のイベントとすることができます。

コロナ禍で職場体験の中止等を余儀なくされた場合でも、削減された部分を少しでも補うためにも、VRTを実施することの意義は高いでしょう。

事前学習

職場体験

事後学習

- 自己理解
自分の興味・関心の把握
・職業レディネス・テスト(VRT)
- 職業理解
・職業人講話
・職業調べ
・仕事インタビュー ……

事前準備

これまでの学習の振り返り／職場体験のねらいの確認／体験内容の調査、事前訪問／マナーや緊急対応関係／体験先選択

- 仕事を覚える
 - 仕事に慣れる
 - 仕事を創意工夫する
 - 達成感、満足感、自信、自己有用感
 - 働くこと、学ぶことへの意欲 ……
- 教師、保護者、体験先の連携による見守り、励まし

- 職場体験記録のまとめ
・感想、自己評価、相互評価、先生・体験先からの評価
- 礼状、事後報告書の作成
- 職場体験発表会
- 職場体験の総括

●参考文献

文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2001年3月
国立教育政策研究所「キャリア教育って結局何なんだ?」2009年11月